

平成 25 年 大栄経理学院

第 14 回建設業経理士試験 模範解答

1 級原価計算

〔第 1 問〕

問 1

次期予想操業度は、対象期間に現実に予定される操業度を予想する方法で、単年度のキャパシティ・コストを当該期間の生産品に全額吸収させてしまう方法である。長期正常操業度は、長期にわたる生産品にキャパシティ・コストを吸収させようとするもので、数年間の平均化された操業度が採用される。実現可能最大操業度は、経営の有する能力を正常状態で最大限に発揮したときに期待される操業度を基準操業度とする方法である。

問 2

品質適合コストとは、製品の品質を品質規格に一致させるためにかかるコストをいい、製品の品質に一致しない製品の生産を予防する予防原価と製品の規格に一致しない製品を発見するのにかける評価原価がある。品質不適合コストとは、製品の品質を品質規格に一致させられなくなっただめに発生したコストをいい、工場内で発生する部品・製品の仕損、補修のための内部失敗原価と欠陥製品の販売によって発生した外部失敗原価がある。

〔第 2 問〕

1	2	3	4	5
コ	ク	イ	オ	キ

〔第 3 問〕

問 1	¥	38,976		
問 2	¥	5,158		
問 3	¥	1,384,712		
問 4	¥	19,638	記号 (X または Y)	X

〔第 4 問〕

A 製品

月末仕掛品原価	¥	192,600
当月完成品原価	¥	1,386,000

B 製品

月末仕掛品原価	¥	110,000
当月完成品原価	¥	932,400

〔第 5 問〕

問 1

完成工事原価報告書	
自 平成×3 年 9 月 1 日 至 平成×3 年 9 月 30 日	
青森建設工業株式会社	
(単位：円)	
I. 材料費	670,820
II. 労務費	388,710
III. 外注費	435,520
IV. 経 費	493,558
(うち人件費	278,578)
完成工事原価	1,988,608

問 2

¥ 1,287,258

問 3

① 材料副費配賦差異	¥ 425	記号 (X または Y)	X
② 重機器部門費操業度差異	¥ 2,120	記号 (X または Y)	X

解 説

〔第3問〕

問1

1. 固定費

(1) 年間減価償却費： $¥55,680,000 \div 8 \text{年} = ¥6,960,000$ (2) 年間経営保全費： $¥55,680,000 \times 5\% = \underline{¥2,784,000}$ 合 計 $= \underline{¥9,744,000}$

2. 固定費に該当する費用の共用1日当たり損料

 $¥9,744,000 \div 250 \text{日} = ¥38,976/\text{日}$

問2

 $¥722,120 \div (104 \text{時間} + 36 \text{時間}) = ¥5,148/\text{時間}$

問3

 $¥38,976/\text{日} \times (11 \text{日} + 6 \text{日}) + ¥722,120 = ¥1,384,712$

問4

配賦差異： $¥38,976/\text{日} \times (11 \text{日} + 6 \text{日}) - ¥55,680,000 \div 8 \text{年} \div 12 \text{ヵ月} - ¥102,230$
 $= \triangle ¥19,638 \text{ (借方残高)}$

〔第4問〕

1. 生産データの分析

A製品				B製品			
月初	200 個	完成	3, 000 個	月初	400 個	完成	2, 800 個
	(160 個)				(300 個)		
当月投入量				当月投入量			
	3, 300 個	月末	500 個		2, 800 個	月末	400 個
	(3, 140 個)		(300 個)		(2, 700 個)		(200 個)

注 ()内は加工費完成品換算数量を意味する。

2. 当月製造費用の按分

(1) 積数

① 直接材料費

A製品： $3,300 \text{個 (当月投入量)} \times 1 \text{ (等価計数)} = 3,300$ B製品： $2,800 \text{個 (当月投入量)} \times 0.8 \text{ (等価計数)} = 2,240$

② 加工費

A製品： $3,140 \text{個 (当月投入量)} \times 1 \text{ (等価計数)} = 3,140$ B製品： $2,700 \text{個 (当月投入量)} \times 0.6 \text{ (等価計数)} = 1,620$

(2) 直接材料費の按分

$$A \text{ 製品} : ¥1,495,800 \times \frac{3,300}{3,300+2,240} = ¥891,000$$

$$B \text{ 製品} : ¥1,495,800 \times \frac{2,240}{3,300+2,240} = ¥604,800$$

(3) 直接材料費の按分

$$A \text{ 製品} : ¥952,000 \times \frac{3,140}{3,140+1,620} = ¥628,000$$

$$B \text{ 製品} : ¥952,000 \times \frac{1,620}{3,140+1,620} = ¥324,000$$

3. 月末仕掛品原価と当月完成品原価

(1) A 製品

A 製品

月初		完成	
直接材料費	54,000	直接材料費	810,000
加工費	5,600	加工費	576,000
当月投入量		月末	
直接材料費	891,000	直接材料費	135,000
加工費	628,000	加工費	57,600

月末仕掛品

$$\text{直接材料費} : (¥54,000 + ¥891,000) \times \frac{500\text{個}}{3,000\text{個} + 500\text{個}} = ¥135,000$$

$$\text{加工費} : (¥5,600 + ¥628,000) \times \frac{300\text{個}}{3,000\text{個} + 300\text{個}} = ¥57,600$$

$$\text{合 計} \quad \quad \quad \underline{\underline{¥192,600}}$$

当月完成品原価

$$\text{直接材料費} : (¥54,000 + ¥891,000) - ¥135,000 = ¥810,000$$

$$\text{加工費} : (¥5,600 + ¥628,000) - ¥57,600 = ¥576,000$$

$$\text{合 計} \quad \quad \quad \underline{\underline{¥1,386,000}}$$

(2) B 製品

B 製品

月初		完成	
直接材料費	89,600	直接材料費	607,600
加工費	24,000	加工費	324,800
当月投入量		月末	
直接材料費	604,800	直接材料費	86,800
加工費	324,000	加工費	23,200

月末仕掛品

$$\text{直接材料費} : (¥89,600 + ¥604,800) \times \frac{400\text{個}}{2,800\text{個} + 400\text{個}} = ¥86,800$$

$$\text{加工費} : (¥24,000 + ¥324,000) \times \frac{200\text{個}}{2,800\text{個} + 200\text{個}} = ¥23,200$$

$$\text{合 計} \quad \quad \quad \underline{\underline{¥110,000}}$$

当月完成品原価

直接材料費：(¥89,600 + ¥604,800) - ¥86,800 = ¥ 607,600

加 工 費：(¥24,000 + ¥324,000) - ¥12,400 = ¥ 324,800合 計 ¥ 932,400

〔第 5 問〕

問 1・問 2

1. 工事別原価集計表

(1) 完成工事原価報告書

	701 工事	703 工事	完成工事原価
材料費			
月初	209,300		
当期発生			
甲材料	101,850	162,750	
乙材料		196,920	670,820
労務費			
月初	115,000		
当期発生	75,070	198,640	388,710
外注費			
月初	151,100		
当期発生	71,910	212,510	435,520
経 費			
月初	87,620		
当期発生			
直接経費	17,707	63,655	
役員報酬	66,816	111,360	
重機械部門費	32,400	114,000	493,558
合 計	928,773	1,059,835	1,988,608

(2) 未完成工事支出金

702 工事
99,880
294,525
172,305
71,150
122,240
86,800
156,140
42,550
58,308
111,360
72,000
1,287,258

経費（うち人件費）

	701 工事	703 工事	完成工事原価
月初	52,880		
当期発生			
従業員給料手当	5,450	14,800	
法定福利費	1,052	8,955	
福利厚生費	3,315	13,950	
役員報酬	66,816	111,360	278,578

2. 材料費

(1) 甲材料

701 工事：¥97,000 + ¥97,000 × 5 % = ¥101,850

702 工事：¥280,500 + ¥280,500 × 5 % = ¥294,525

703 工事：¥155,000 + ¥155,000 × 5 % = ¥162,750

(2) 乙材料

① 9 月 11 日における平均単価

$$\frac{¥115,000 + ¥377,300}{46個 + 154個} = ¥2,461.5/個$$

② 消費額

$$702 \text{ 工事} : ¥2,461.5/個 \times 70 \text{ 個} = ¥172,305$$

$$703 \text{ 工事} : ¥2,461.5/個 \times 80 \text{ 個} = ¥196,920$$

3. 労務費

(1) 配賦率

$$(¥382,750 - ¥82,400 + ¥81,650) \div 25 \text{ 日} = ¥15,280/\text{日}$$

(2) 配賦額

$$701 \text{ 工事} : ¥15,280/\text{日} \times 4 \text{ 日} + ¥13,950 = ¥75,070$$

$$702 \text{ 工事} : ¥15,280/\text{日} \times 8 \text{ 日} = ¥122,240$$

$$703 \text{ 工事} : ¥15,280/\text{日} \times 13 \text{ 日} = ¥198,640$$

4. 外注費

(1) P 外注工事配賦率

$$¥206,780 \div 98 \text{ 時間} = ¥2,110/\text{時間}$$

(2) 配賦額

$$701 \text{ 工事} : ¥2,110/\text{時間} \times 9 \text{ 時間} + ¥52,920 = ¥71,910$$

$$702 \text{ 工事} : ¥2,110/\text{時間} \times 35 \text{ 時間} + ¥82,290 = ¥156,140$$

$$703 \text{ 工事} : ¥2,110/\text{時間} \times 54 \text{ 時間} + ¥98,570 = ¥212,510$$

5. 経 費

(1) 役員報酬

① 配賦率

$$¥556,800 \div (13 \text{ 日} + 12 \text{ 日}) = ¥22,272/\text{日}$$

② 配賦額

$$701 \text{ 工事} : ¥22,272/\text{日} \times 3 \text{ 日} = ¥66,816$$

$$702 \text{ 工事} : ¥22,272/\text{日} \times 5 \text{ 日} = ¥111,360$$

$$703 \text{ 工事} : ¥22,272/\text{日} \times 5 \text{ 日} = ¥111,360$$

(2) 重機械部門費

① 配賦率

$$¥216,000 \div 180 \text{ 時間} = ¥1,200/\text{時間}$$

② 配賦額

$$701 \text{ 工事} : ¥1,200/\text{時間} \times 27 \text{ 時間} = ¥32,400$$

$$702 \text{ 工事} : ¥1,200/\text{時間} \times 60 \text{ 時間} = ¥72,000$$

$$703 \text{ 工事} : ¥1,200/\text{時間} \times 95 \text{ 時間} = ¥114,000$$

問 3

1. 材料副費配賦差異

(1) 当期発生： $¥532,500 \times 5\%$ (予定配賦額) $- ¥27,970$ (実際発生額) $= \triangle ¥1,345$ (借方差異)

(2) 材料副費配賦差異残高： $¥1,345$ (借方差異) $- ¥920$ (貸方残高) $= ¥425$ (借方残高)

2. 重機械部門費操業度差異

(1) 当期発生： $¥1,200/\text{時間} \times (182 \text{ 時間} - 180 \text{ 時間}) = ¥2,400$ (貸方差異)

(2) 重機械部門費操業度差異： $¥4,520$ (借方残高) $- ¥2,400$ (貸方差異) $= ¥2,120$ (借方残高)